

- 1 クラス代表に選ばれた。うれしい。でも、当日は入院した祖母の見まいに行く約束もある。ぼくはカレンダーを見つめたまま、どちらにも返事ができなかった。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① 選ばれた うれしさと、祖母との 約束の 間で 決めかねている
- ② 選ばれた 重さに とまどい、見まいに 行くと もう 決めている
- ③ 選ばれた 重さに とまどい、祖母との 約束の 間で 決めかねている
- ④ 選ばれた うれしさはあるが、見まいに 行くと もう 決めている

こたえ

- 2 大雪で、学校が休みになった。弟は大喜びで、外へ飛び出していった。けれど、ぼくは窓の外を見て、ため息をついた。今日は、一か月練習してきた合奏の発表の日だったのだ。ぼくは、前の晩に出しておいた楽器ケースを、なかなか片づけられなかった。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① うれしさ と 心残り
- ② がっかり と 心残り
- ③ がっかり と わくわく
- ④ うれしさ と わくわく

こたえ

- 3 テストが返ってきた。満点のけんじは、机の下でそとこぶしをにぎった。となりのぼくは、答案を見ないように、そとかばんへしまった。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

けんじと ぼくの 気持ちの 組み合わせに 近いものは どれ？

- ① けんじ＝満点を みんなに 見せたい／ぼく＝自分の 点に 満足している
- ② けんじ＝満点を みんなに 見せたい／ぼく＝点を見たくない 落ちこみ
- ③ けんじ＝うれしさを 表に 出さない／ぼく＝自分の 点に 満足している
- ④ けんじ＝うれしさを 表に 出さない／ぼく＝点を見たくない 落ちこみ

こたえ

- 1 決勝戦で負けた。仲間はコートで泣いていた。主将のぼくは、なみだが出なかった。この一年、やれることは全部やったと思えたからだ。けれど、泣いている仲間を見ると、自分だけ平気な顔でいるのが悪い気がして、目をふせた。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① 満足 と ほこらしさ
- ② くやしさと ほこらしさ
- ③ 満足 と もうしわけなさ
- ④ くやしさと もうしわけなさ

こたえ

- 2 同じ日に習い始めたのに、友だちはもう次の級に進んだ。わたしは、まだ同じ級のままだ。友だちの合格を、うまく「おめでとう」と言えなかった。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、わたしの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① あきらめ
- ② 喜び
- ③ てれくささ
- ④ くやしさ

こたえ

- 3 親友のゆいが転校すると聞いてから、わたしは一週間、何をしても元気が出なかった。お別れ会の日、ゆいが言った。「転校先、となりの町なんだ。自転車で二十分だよ。」わたしは思わず「え、それだけ？」と言い、二人で大笑いした。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

わたしの 気持ちは、どう 変わりましたか。

- ① さびしさ → ひょうしぬけ
- ② いかり → ひょうしぬけ
- ③ さびしさ → あきらめ
- ④ いかり → あきらめ

こたえ

- 1 明日から、新しい学校。新しい友だちができるかな。ちゃんと やっていけるかな。
ゆうたは布団の中で、なかなか目を閉じられなかった。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ゆうたの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① 新しい生活への期待で、明日の朝が待ちきれない気持ち
- ② 新しい友だちへの期待と、うまくやれるかの不安
- ③ 前の学校の友だちと別れたさびしさと、新しい生活への不安
- ④ 新しい学校への不安で、行きたくないと思いつめる気持ち

こたえ

- 2 兄が遠くの大学の寮へ旅立つ朝。この一か月、母は毎晩おそくまで兄の荷造りを手伝っていた。母は笑顔で手をふり、車が見えなくなると、大きくのびをした。それから、「さあ、あの部屋をお母さんの手芸の部屋にしよう」と、鼻歌まじりにメジャーを取り出した。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、母の 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① 心配な気持ち と 楽しみ
- ② 心配な気持ち と 寂しさ
- ③ ほっとした気持ち と 楽しみ
- ④ ほっとした気持ち と 寂しさ

こたえ

- 3 助けを呼びに、力いっぱい走った。けれど、まに合わなかった。ぼくにできることは、何もなかった。にぎったこぶしの中が、じんわりと熱くなった。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① 安心
- ② はずかしさ
- ③ 満足
- ④ くやしさ

こたえ

- 1 給食に苦手なピーマンが出た。ぼくは、どうやって残そうかと皿をにらんでいた。となりのはるとが「それ、もらっていい？大好きなんだ」と言うので、皿ごとわたした。ところが、はるとがおいしそうに食べるのを見ているうちに、ぼくは「やっぱり、一つだけ返して」と言っていた。

★ 気持ちが分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

ぼくの 気持ちは、どう 変わりましたか。

- ① ゆううつ → 興味
- ② 期待 → 安心
- ③ ゆううつ → 安心
- ④ 期待 → 興味

こたえ

- 2 母の誕生日に、こっそりケーキを焼こうと小麦粉をはかっていたら、母が台所に入ってきた。母は目を丸くしてから、「あら、何も見なかったことにするね」と言って、そっと戸を閉めた。ぼくはふき出してしまい、粉だらけの手のまま、閉まった戸に小さく頭を下げた。

★ 気持ちが分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① あせりと感謝
- ② あせりとがっかり
- ③ おかしさと感謝
- ④ おかしさとがっかり

こたえ

- 3 楽しみにしていた遠足が、雨で中止になった。教室じゅうが「えー」と言い、ぼくもみんなと同じように「えー」と言った。けれど本当は、半分しかかいていない班の地図を思い出し、こっそり胸をなでおろしていた。

★ 気持ちが分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① 思わず声が出たが、本心ではほっとしている
- ② 声はみんなに合わせたが、本心ではほっとしている
- ③ 思わず声が出るほど、本心でもがっかりしている
- ④ 声はみんなに合わせたが、本心でもがっかりしている

こたえ

- 1 百人一首大会で、ぼくは初めて優勝した。けれど決勝の相手のひろとは、熱があるのにむりをして出ていたらしい。賞状を受け取るときも、ぼくは、せきこむひろとの赤い顔ばかり思い出していた。家に帰っても、優勝したことを自分から話す気になれなかった。

★ 気持ちが分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① もやもや と 心配
- ② もやもや と ほこらしさ
- ③ うれしさ と 心配
- ④ うれしさ と ほこらしさ

こたえ

- 2 お気に入りのパーカーを、姉がだまって着て出かけていた。帰ってきたら文句を言ってやる、と待っていたのに、姉はげんかんで「これ、友だちにすごくほめられたよ。どこで買ったの？」と言った。わたしは言いかけた文句を飲みこみ、少し胸をはって店の名前を教えた。

★ 気持ちが分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

わたしの 気持ちは、どう 変わりましたか。

- ① さびしさ → あきらめ
- ② さびしさ → ほこらしさ
- ③ いかり → あきらめ
- ④ いかり → ほこらしさ

こたえ

- 3 学芸会の配役が決まった。主役はりょうた、ぼくはナレーターだ。りょうたは台本をめくりながら、「こんなに覚えられるかな」とため息をついている。ぼくは、主役の倍もあるナレーターのせりふに、鼻歌まじりで線を引き始めた。

★ 気持ちが分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

りょうたと ぼくの 気持ちの 組み合わせに 近いものは どれ？

- ① りょうた=主役になれて得意／ぼく=はりきっている
- ② りょうた=覚えられるか不安／ぼく=はりきっている
- ③ りょうた=覚えられるか不安／ぼく=主役でなくがっかり
- ④ りょうた=主役になれて得意／ぼく=主役でなくがっかり

こたえ

1 こたえ：① 選ばれた うれしさと、祖母との 約束の 間で 決めかねている

★ 線を ひく ところ (赤い ことば)

クラス代表に選ばれた。うれしい。でも、当日は入院した祖母の見まいに行く約束もある。ぼくはカレンダーを見つめたまま、どちらにも返事ができなかった。

手がかり：『うれしい』（とまどいではない）一方、見まいの約束もあり『どちらにも返事ができなかった』（まだ決めていない）＝相反する二つの間で決めかねる葛藤。

2 こたえ：② がっかり と 心残り

★ 線を ひく ところ (赤い ことば)

大雪で、学校が休みになった。弟は大喜びで、外へ飛び出していった。けれど、ぼくは窓の外を見て、ため息をついた。今日は、一か月練習してきた合奏の発表の日だったのだ。ぼくは、前の晩に出しておいた楽器ケースを、なかなか片づけられなかった。

手がかり：学校が休みになったのに『ため息をついた』＝うれしさではなく、発表がなくなったがっかり／出しておいた楽器ケースを『なかなか片づけられなかった』＝雪遊びのわくわくではなく、練習してきた発表への心残り。

3 こたえ：④ けんじ＝うれしさを 表に 出さない／ぼく＝点を見たくない 落ちこみ

★ 線を ひく ところ (赤い ことば)

テストが返ってきた。満点のけんじは、机の下でそっとこぶしをにぎった。となりのぼくは、答案を見ないように、そっとかばんへしまった。

手がかり：

けんじは机の下でそっとこぶしをにぎる＝喜びを表に出さずこらえる（見せびらかさない）／ぼくは答案を見ないようにかばんへしまう＝見たくない落ちこみ。二人の対比を読む。

1 こたえ：③ 満足 と もうしわけなさ

★線をひくところ（赤いことば）

決勝戦で負けた。仲間はコートで泣いていた。主将のぼくは、なみだが出なかった。この一年、やれることは全部やったと思えたからだ。けれど、泣いている仲間を見ると、自分だけ平気な顔でいるのが悪い気がして、目をふせた。

手がかり：

負けても『なみだが出なかった』『やれることは全部やったと思えた』＝くやしさではなく満足／泣いている仲間を見て『悪い気がして』目をふせる＝ほこらしさではなく、もうしわけなさ。

2 こたえ：④ くやしさ

★線をひくところ（赤いことば）

同じ日に習い始めたのに、友だちはもう次の級に進んだ。わたしは、まだ同じ級のままだ。友だちの合格を、うまく「おめでとう」と言えなかった。

手がかり： 同じ日に始めた友だちは先へ、

自分は同じ級のままだ／合格を素直に『おめでとう』と言えない＝照れではなく、自分がおとって見えるくやしさ・情けなさ。

3 こたえ：① さびしさ → ひょうしめけ

★線をひくところ（赤いことば）

親友のゆいが転校すると聞いてから、わたしは一週間、何をしてても元気が出なかった。お別れ会の日、ゆいが言った。「転校先、となりの町なんだ。自転車で二十分だよ。」わたしは思わず「え、それだけ？」と言い、二人で大笑いした。

手がかり： はじめは『何をしてても元気が出なかった』＝いかりではなく、さびしさ／『え、それだけ？』と大笑い＝あきらめではなく、思っていたほどではなかったひょうしめけ。

1 こたえ：② 新しい友だちへの期待と、うまくやれるかの不安

★線をひくところ（赤いことば）

明日から、新しい学校。新しい友だちができるかな。ちゃんとやっていけるかな。
ゆうたは布団の中で、なかなか目を閉じられなかった。

手がかり：

『友だちできるかな』（期待）と『やっていけるかな』（不安）の両方＋なかなか目を閉じられない＝期待と不安が入り混じる。前の学校のことは書かれていない。

2 こたえ：③ ほっとした気持ちと楽しみ

★線をひくところ（赤いことば）

兄が遠くの大学の寮へ旅立つ朝。この一か月、母は毎晩おそくまで兄の荷造りを手伝っていた。母は笑顔で手をふり、車が見えなくなると、大きくのびをした。
それから、「さあ、あの部屋をお母さんの手芸の部屋にしよう」と、鼻歌まじりにメジャーを取り出した。

手がかり：一か月続いた荷造りが終わり、見送ったあと『大きくのびをした』＝心配ではなく、ほっとした気持ち／空いた部屋の使い道を決めて『鼻歌まじり』＝寂しさではなく、これからの楽しみ。

3 こたえ：④ くやしさ

★線をひくところ（赤いことば）

助けを呼びに、力いっぱい走った。けれど、まに合わなかった。ぼくにできることは、何もなかった。にぎったこぶしの中が、じんわりと熱くなった。

手がかり：

力いっぱい走ったがまに合わず『できることは何もなかった』／にぎったこぶしの中がじんわり熱い＝何もできなかった自分へのくやしさ（満足や安心ではない）。

1 こたえ：① ゆううつ → 興味

★線をひくところ（赤いことば）

給食に苦手なピーマンが出た。ぼくは、どうやって残そうかと皿をにらんでいた。となりのはるとが「それ、もらっていい？大好きなんだ」と言うので、皿ごとわたした。ところが、はるとがおいしそうに食べるのを見ているうちに、ぼくは「やっぱり、一つだけ返して」と言っていた。

手がかり：はじめは『どうやって残そうか』と皿をにらむ＝期待ではなく、ゆううつ／わたして終わりではなく『一つだけ返して』＝安心ではなく、食べてみたくなった興味。

2 こたえ：③ おかしさ と 感謝

★線をひくところ（赤いことば）

母の誕生日に、こっそりケーキを焼こうと小麦粉をはかっていたら、母が台所に入ってきた。母は目を丸くしてから、「あら、何も見なかったことにするね」と言って、そっと戸を閉めた。ぼくはふき出してしまう、粉だらけの手のまま、閉まった戸に小さく頭を下げた。

手がかり：見つかったのに『ふき出して』しまう＝あせりではなく、母のとぼけ方へのおかしさ／閉まった戸に頭を下げる＝計画がばれたがっかりではなく、知らないふりをしてくれた母への感謝。

3 こたえ：② 声は みんなに 合わせたが、本心では ほっと している

★線をひくところ（赤いことば）

楽しみにしていた遠足が、雨で中止になった。教室じゅうが「えー」と言い、ぼくもみんなと同じように「えー」と言った。けれど本当は、半分しかかいていない班の地図を思い出し、こっそり胸をなでおろしていた。

手がかり：『みんなと同じように』言った＝思わず出た声ではなく、まわりに合わせた声／『本当は』『胸をなでおろしていた』＝がっかりではなく、地図をかく時間ができてほっとしている。

1 こたえ：① もやもや と 心配

★線をひくところ（赤いことば）

百人一首大会で、ぼくは初めて優勝した。けれど決勝の相手のひろとは、熱があるのにむりをして出ていたらしい。賞状を受け取るときも、ぼくは、せきこむひろとの赤い顔ばかり思い出していた。家に帰っても、優勝したことを自分から話す気になれなかった。

手がかり：優勝したのに『自分から話す気になれなかった』＝うれしさやほこらしさではなく、すっきりしないもやもや／『ひろとの赤い顔ばかり思い出していた』＝熱をおして出た相手への心配。

2 こたえ：④ いかり → ほこらしさ

★線をひくところ（赤いことば）

お気に入りのパーカーを、姉がだまって着て出かけていた。帰ってきたら文句を言ってやる、と待っていたのに、姉はげんかんで「これ、友だちにすごくほめられたよ。どこで買ったの?」と言った。わたしは言いかけた文句を飲みこみ、少し胸をはって店の名前を教えた。

手がかり：はじめは『文句を言ってやる』と待つ＝さびしさではなく、いかり／文句を飲みこんで『少し胸をはって』教える＝あきらめではなく、選んだ服をほめられたほこらしさ。

3 こたえ：② りょうた＝覚えられるか 不安／ぼく＝はりきっている

★線をひくところ（赤いことば）

学芸会の配役が決まった。主役はりょうた、ぼくはナレーターだ。りょうたは台本をめくりながら、「こんなに覚えられるかな」とため息をついている。ぼくは、主役の倍もあるナレーターのせりふに、鼻歌まじりで線を引き始めた。

手がかり：

主役のりょうたは『こんなに覚えられるかな』とため息＝得意ではなく不安／ナレーターのぼくは長いせりふに『鼻歌まじり』で線を引く＝がっかりではなく、はりきっている。